

県内最長歩道トンネル内 写真や絵楽しむ

環境省が進める国特別天然記念物トキの放鳥事業で石川県と能登9市町が候補地に名乗りを上げたことを受け、穴水町で県内最長の歩道トンネルを「トキ回廊」にしようと住民らが活動に取り組んでいる。穴水町は本州最後の野生のトキ（愛称・能里）が捕獲された場所。トンネル内に写真や絵を展示することで、トキの里をアピールする狙いで、町に5月、要望書を出して協力を求めた。



トキの写真や絵を展示する場所として活用が上がる歩道トンネル
＝穴水町乙ヶ崎

穴水にトキ回廊を

地元ファンクラブ要望

活動を進めているのは、トキが飛び交う能登を自指して昨年秋季に発足した「能登トキファンクラブ」（穴水町）。トキに関して町内にまとまった展示場所がないことから、捕獲地近くの同町乙ヶ崎の歩道トンネルの活用を目指している。

歩道トンネルは1995年、国道249号沿いに完成した。延長145㍎、幅員3・5㍎、高さ2・5㍎で、国道の交通量が多いため、これに並行する形で整備された。県によると、県内には能登町と宝達志水町にも歩道トンネルがあるが、穴水町が最長という。

トンネル内の壁面には、縦1㍎、横2㍎の展示スペースが12カ所あり、このうち6カ

所には、穴水名物の「ボラ待ち櫓」や春の風物詩「イサザ漁」などを描いた陶板が飾られている。一方、残り6カ所は、かつては子どもたちの絵などが飾られていたが、現在は使われていない。

ファンクラブの宮下源一郎会長(74)＝同町乙ヶ崎＝は「せっかくの場所を生かさないのはもったいない」と話し、日中朱鷺保護協会名誉会長でクラブ相談役の村本義雄さん(97)＝羽咋市＝が所有するトキの写真をはじめ、町内の子どもたちにはトキの絵を描いてもらって掲示したいとする。

県は5月、トキの受け入れに向け、宝達志水以北の9市町やJ.A、森林組合などが「能登地域トキ放鳥受入推進協議会」を設立。放鳥の候補地として選定するよう、環境省に申請した。

トンネルを管理する県奥能登土木総合事務所の担当者は「できるだけ協力し、展示物の管理について相談したい」と話した。

